

富山クリエイティブ専門学校

平成31年度（2019年度）

学校関係者評価報告書

令和2年4月

学校法人片山学園

富山クリエイティブ専門学校

学校関係者評価報告書について

本校では、教育や業務の改善を図るべく、継続的に自己点検・自己評価に取り組み、更なる教育の質の向上を図るべく、第三者の方々のご意見等を賜り、今後の教育活動や学校運営に反映、改善に向けて、学校関係者評価委員会 を実施し、学校関係者評価報告書 として学校ホームページ上での公表といたします。

学校関係者評価委員会 委員

氏名	選出区分	所属	任期
西湖 孝彰	企業関係者	代表取締役社長	2年
室永 佳子	保護者関係者	保育教諭	2年
表寺 あづさ	保護者関係者	会社員	2年
深山 智佳	卒業生関係者	会社員	2年

平成31年度 学校関係者評価委員会議事録

開催日時：令和2年 3月27日(金) 17:30～19:00
実施会場：富山クリエイティブ専門学校 応接室
出席者：学校関係者評価委員会委員
委員：西湖 孝彰
委員：室永 佳子
委員：表寺 あづさ
委員：深山 智佳

学校出席者

大野 幸一 校長
角 和行 教務部長兼デザイン学科学科長
生瀬 吉美 建築学科学科長

議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 平成31年度 学校評価(自己点検・自己評価) 報告
4. 質疑応答
5. 平成31年度 活動報告
6. 閉会

※ 今年度学校関係者評価委員会実施について、新型コロナウイルス感染症拡大、外出自粛処置等の状況を考慮し書面委員会とし、次期を改め次回開催を検討する

報告審議項目 目次

教育活動

《教育目標の設定等について》

《教育方法・評価等について》

《資格試験について》

《教職員について》

教育成果

《就職率の向上について》

学生支援

《学生相談の体制に関する整備について》

《退学率低減について》

《保護者との連携について》

教育環境

《施設設備について》

《学内外の実習施設、インターンシップ等について》

学生の募集と受け入れ

《学生募集活動について》

教育活動

◆教育目標の設定等について

◆現状と課題

各学科の育成人材像、教育到達レベルや学習時間の確保についての現状は以下のとおりである。

デザイン学科

1年目は基本の習得、2年目は現場レベルの授業を交えて、企業に採用される人材に近づくことを目標としています。しかし、個人の能力差、入学目的、受講意識の違いなどにより、個々の到達レベルは異なり、身につけるデザイン力や満足度も異なっている。

実習を通して学ぶことが効果的学習と考え、実習時間を多く確保しているが、第2期は授業課題以外にコンペ作品を制作する時間や祝日、休日が多く実習時間の確保が十分でなかった為、実習時間の計画と調整が課題となっている。

建築学科

シラバスには授業内容、時間数、目標、評価方法を明確にしている。また、年間1,800時間以上の授業時間数を確保し、二級建築士指定科目単位認定の基準があるため、第三者機関の審査認可を受けている。

専門知識の習得としては、個人の家具修能力差が影響し、個人差が見えてくる不足者への補填等、習得度の向上が課題となっている。

◆今後の改善策

各学科の育成人材像を以下とする。

デザイン学科

- ・社会的精神面：自分の能力に満足したりあきらめたりすることなく常に向上心を持って臨む。指摘された点を素直に認め、改善していける柔軟な姿勢をもつ。周囲への配慮と自己統制ができる。
- ・専門的精神面：自分の表現のみに固執せず、どう表現したらうまく伝わるかを優先して形にしていく。洗練させるべき箇所や過程を見つけ出し、すぐに修正する対応力をもつ。
- ・専門的技術面：パソコンを操作してデザイン作品を制作できる。ソフトの様々な表現技術を習得し、個性的な世界観を表現できるように努める。

建築学科

- ・専門学力面： 国家資格である二級建築資格取得のための学力向上、意欲向上へ向けて学習姿勢を養う。
- ・創造力面： 見聞を広め、実習を通じ経験を得て何もないところから作り出す力を養う。
- ・表現力： 自らの考えを第三者に伝える力、相手の考えを聞き出す力を養う。

上記内容の周知は、非常勤講師と常勤教員との「説明会」や「懇談会」を設けて、相互理解を深め、学生に対する共通見解の共有に努める。

学生個々の到達レベルの差、得意不得意を見極め、一定レベルの質の確保を目指す。

また、将来の就職先で必要と思われる技術を補う方法も検討する。

授業課題とコンペ課題を同一にすることで実習時間を確保する。

デザイン学科では、学期末の補講を設けることでより学習時間の充実を図っていく。

◆教育方法・評価等について

◆現状と課題

- ・カリキュラムの体系的編成について
学科毎に時期の違いはあるが、基礎科目を履修し、その後コースに分かれて、専門的かつ実践的な科目を受講できるようにしている。年度ごとに非常勤講師（関連分野の専門職）の意見を取り入れ、カリキュラムの見直し、検討を行っている。
- ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムについて
建築学科は、設計寄りのカリキュラムは充実していますが、現場実務的な要素が弱いと思われる。
デザイン学科のグラフィックコース、Webデザインコースは現場と同類の課題を設定しやすいため、キャリアを意識した指導となるが、イラストコースの授業内容が就職へのステップやスキルアップにつながりにくいところが課題となっている。
- ・関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ、実技・実習等）について
毎年1年、2年共の夏休み期間に合わせ、関連専門分野でのインターンシップを実施している。インターンシップはその後の授業の理解度促進、就職活動の参考にもなり有意義な体験となっている。現在は希望者に実施しているが、全員に体験させる事が課題となる。
- ・授業評価の実施・評価体制について
各学期終了後、科目ごとに学生からのアンケートによる授業評価を実施している。評価結果は授業改善、充実に反映させている。将来的には学生評価の公開、第三者評価等の実施も検討となる。
- ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準について
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は学則に明文化されており、年1回年度初めに配布する学生必携及び履修の手引きを使って、学生に周知している。

◆今後の改善策

専門家である非常勤講師との話し合いの場を設け、本校の理念・目標を周知するとともに、授業内容や学生等の情報交換を行い、カリキュラム編成と充実を検討する。
インターンシップは学生が自らの進路を考え、適切な進路選択の参考になり、また授業内容の理解促進のためにも有意義なため、1年次から学生への意識改革と受け入れ可能な企業の開拓、全員が職業体験できる環境の整備が望まれる。

◆資格試験について

◆現状と課題

建築学科は国家資格試験に合格できるレベルのカリキュラムを編成している。
両学科とも、専門分野の資格のみならず、就職に有利なビジネス系の資格取得が可能なカリキュラム編成をしている。

◆今後の改善策

国家資格試験、各資格の受験率及び合格率向上に対する対策が必要とされる。

◆教職員について

◆現状と課題

各分野で活躍している人材、実務経験の豊富な人材、資格を有している人材を非常勤講師として迎え、常勤教員で補えない分野を補っている。
今後は非常勤講師の若返りや新規人材開拓、若手教員の育成が必要と予測される。

教育成果

◆現状と課題

◆就職率の向上について

本校では就職希望者が、それぞれの希望に応じて就職ができるよう計画的な就職指導、就職斡旋などを行っている。毎年、就職率100%を目指して実践しており、平成31年度は建築学科100%、デザイン学科は88%（求職者就職率）の就職率となった。

未内定のまま卒業した学生の、その後のフォローを続けていく体制を整える必要がある。

今年度、卒業後すぐに就職内定実績が上がっている。

◆今後の改善策

- ・毎年就職率100%になるよう就職先の新規企業開拓、情報の収集、紹介として学生指導を行い就職率向上を図る。
- ・学生の就職意識の向上を図る為の指導、面談等を早期より行う必要が求められる。
- ・未内定のまま卒業した学生に対するフォロー体制の整備を行う。

学生支援

◆現状と課題

◆学生相談に関する体制は整備について

学生相談は担任が中心に行っているが、担任が抱えきれない問題は、ほかの教員とも情報を共有し、協力し合っ
て対応する体制を取っている。面談により問題のあると思われる学生に対しては、抱え込まずにできるだけ専
門機関に相談するようにしている。

学生相談カウンセラーの設置により、問題の大小を分けて対応の出来る体制としている。

◆退学率の低減について

本校の特長でもある「ひとり一人を大切に」する教育から、担任は日ごとの学生観察、学生に対する声掛けを
怠らず、必要に応じて面談などを実施し学生理解に努めている。

また、学生の学習や学校生活に関する情報を教職員が共有し、一丸となって退学を未然に防ぐ努力をしている。

◆保護者との連携について

「保護者の会」を組織して、毎年総会理事会を開催し保護者との意見交換ができる場を設けている。また、年
2回三者面談を実施し、学校生活、学生の様子、資格取得や就職に関することなどの情報交換を行っている。

毎月学園便りを発行し、学校の取り組み、学校行事、今後の予定など学生生活の様子などがわかる記事などを
掲載している。時期に応じて、学生の成績、各種通知と共に直接保護者の手に渡るよう発送している。

教育環境

◆現状と課題

◆施設・設備について

本校では専門学校の設置基準に基づき、必要とされる施設・設備は整備されている。

校舎のメンテナンスに関して、順次整備計画を立てており、障害者対応としては、設備はトイレ、エレベーターなどの対応整備されている。今後は、エレベーター改修の整備が望まれる。

また、機器備品については、各学科で教育上必要と思われるものに優先順位を付け、緊急性の高いものから整備を行い、教育効果を上げている。

教室や情報機器は盆休み、年末年始、土日祝日以外は、長期休暇中も届出申請により学生に使用許可している。学生は課題制作や就職活動の準備等に活用している。

◆学内外の実習施設、インターンシップ等について

建築学科ではカリキュラムの中に学外見学をとり入れ、建築現場、木材試験場、モデルハウスなどを見学体験することで、教育効果を上げている。

インターンシップは、学校と企業と綿密に連絡を取り、学生を就業体験させることで、専門分野への理解、就職意識の向上に繋げている。現在は希望性とし実施している。

◆今後の改善策

インターンシップの参加がその後の就職活動、課題制作等に与える影響が大きいことから、事前教育を十二分に行うことで、インターンシップ参加者増を図る。

学生の募集と受け入れ

◆現状と課題

◆学生募集活動について

毎年作成している学生募集要項に基づき、募集活動を行なっている。オープンキャンパスは、6月から11月まで実施し、体験授業のほか作品鑑賞などにより参加者には将来の到達レベルを伝えている。また学校の特長、カリキュラムの内容、資格取得、就職内定状況等の説明を適切に行うよう努め、参加者のアンケートをもとに理解度満足度を確認、必要に応じてその場でフィードバックしている。

また1月から3月までは、学校見学説明会として、該当年の受験を視野に入れた入学希望者に見学、説明を行う。